

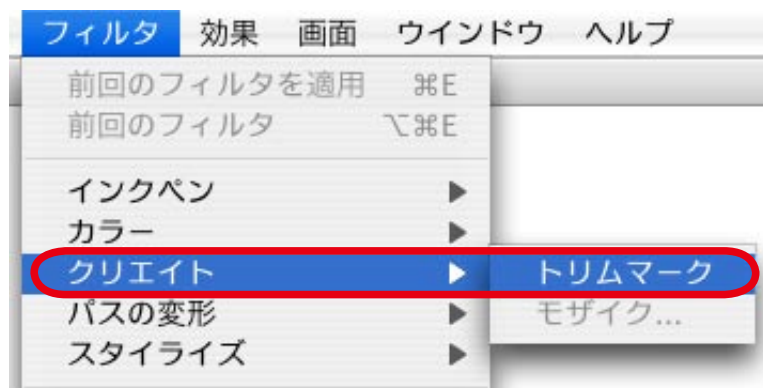
データ作成時の注意 (イラストレーター 9 ~ 10)

トンボ(トリムマーク)を付ける。

トンボは印刷の仕上りサイズ、塗り足し部分を正確に伝えるために、必ずトンボをつけて作成して下さい。

トンボは以下の方法で作成して下さい。

仕上りサイズのボックスを選択した状態で、フィルタメニューから「クリエイト」→「トリムマーク」を選択して下さい。



塗り足しを付ける。

写真やオブジェクトが仕上りサイズまで来る場合、微妙な用紙のズレや断裁時のズレにより白場が見えてしまう事があります。それを防ぐため、仕上りのサイズより外側に上下左右 3mm 程、余分に写真やオブジェクトの幅を広げておく必要があります。この部分を「塗り足し」といいます。データ作成時には必ず「塗り足し」をつけて作成して下さい。



仕上りサイズでデータができている。
断裁時白が出てしまうおそれあり。



塗り足しまでデータが作成されている。

※断裁時の僅かな位置ズレにより、印刷仕上り範囲付近にある文字やデザインは切れてしまう可能性があります。

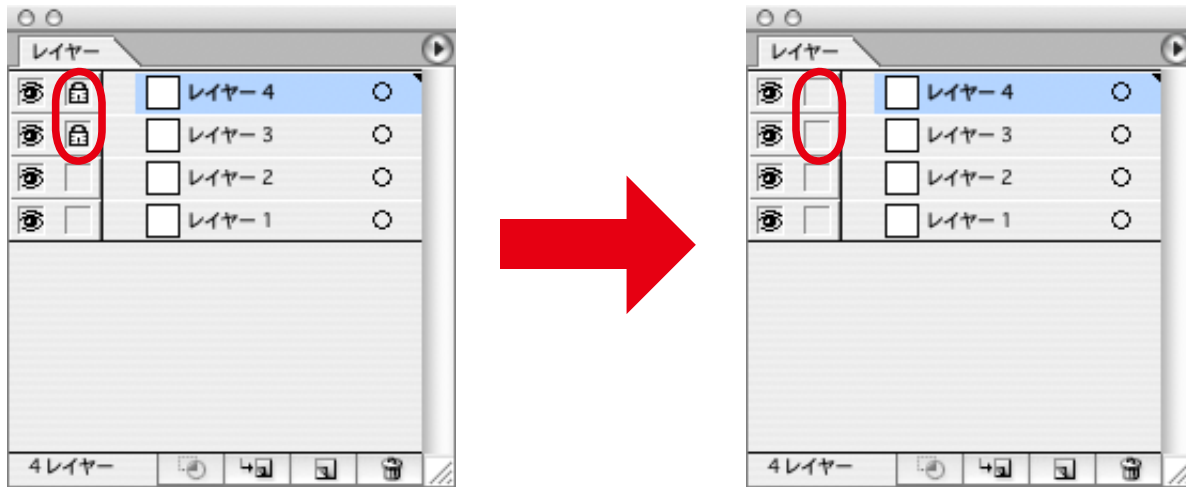
切れては困る文字やデザインは印刷仕上り範囲より 2 ~ 3mm 程内側で作成して下さい

フォントは**全てアウトライン化**して下さい。

アウトラインをとり忘れると文字化け等のトラブルが発生する場合がありますので、必ずアウトライン化して下さい。

アウトラインの取り方手順

レイヤーのロックの解除

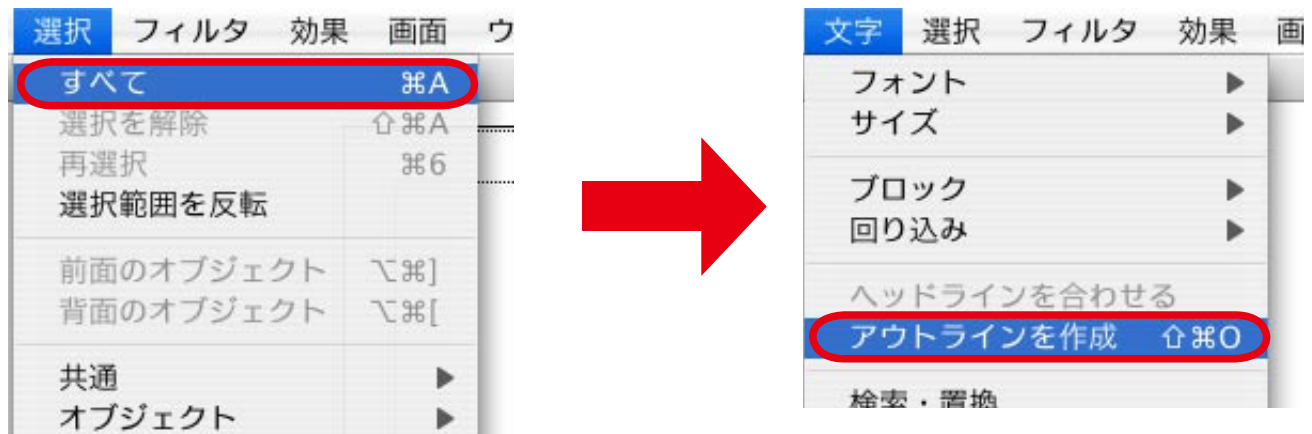


オブジェクトのロックを解除



文字のアウトライン化

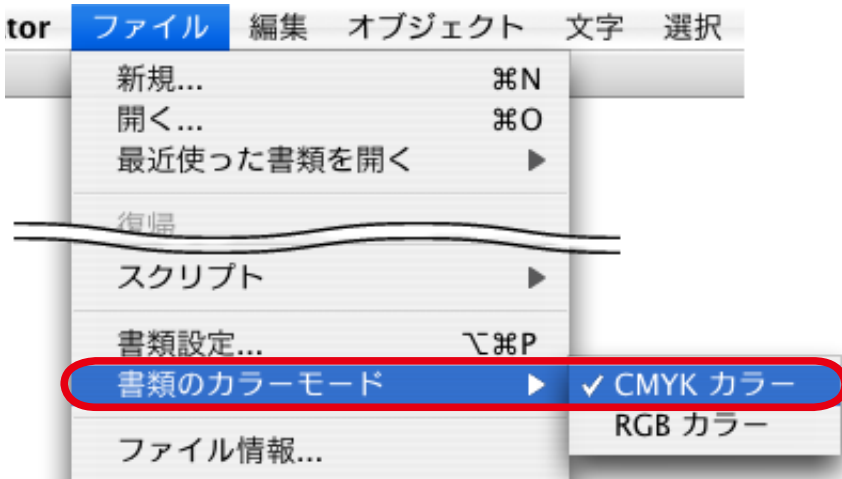
「選択」 → 「全てを選択」 → 「文字」 → 「**アウトラインを作成**」を選択します。



カラーモード設定

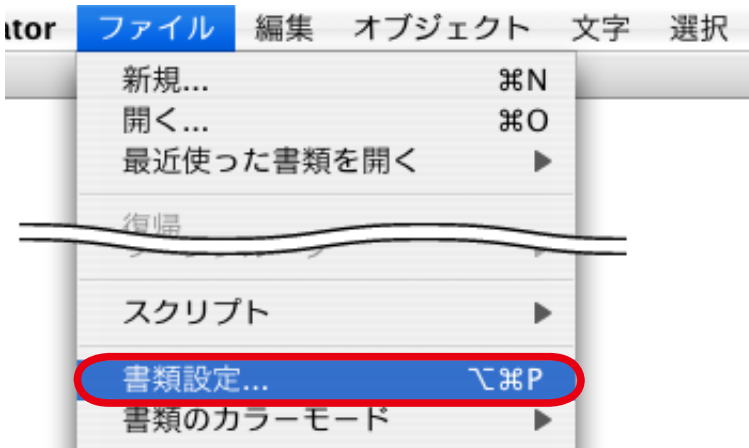
カラーモードは必ず **CMYK カラー** を選択

「ファイル」 → 「書類のカラーモード」 → 「**CMYK カラー**」 を選択します。



アートワークの**分割設定**

「ファイル」 → 「書類設定」を開きます。



設定を以下の通りにして下さい。





透明の項目設定

- ・ 「分割設定」の「ラスターサイズ／ベクトル設定」：スライダーを一番右（ベクトル）に設定する。
- ・ すべてのテキストをアウトラインに変換：チェックをはずして下さい。
- ・ すべての線をアウトラインに変換：チェックをはずして下さい。
- ・ 可能な場合オーバープリントを保持：チェックはどちらでも構いません。

ラスター効果設定を確認します。

「効果」 → 「書類のラスター効果設定」を開きます。



適切な解像度値に設定して下さい。

印刷では、300 から 350ppi が適切となっています。

例：ラスター効果設定の違い

72ppi



350ppi



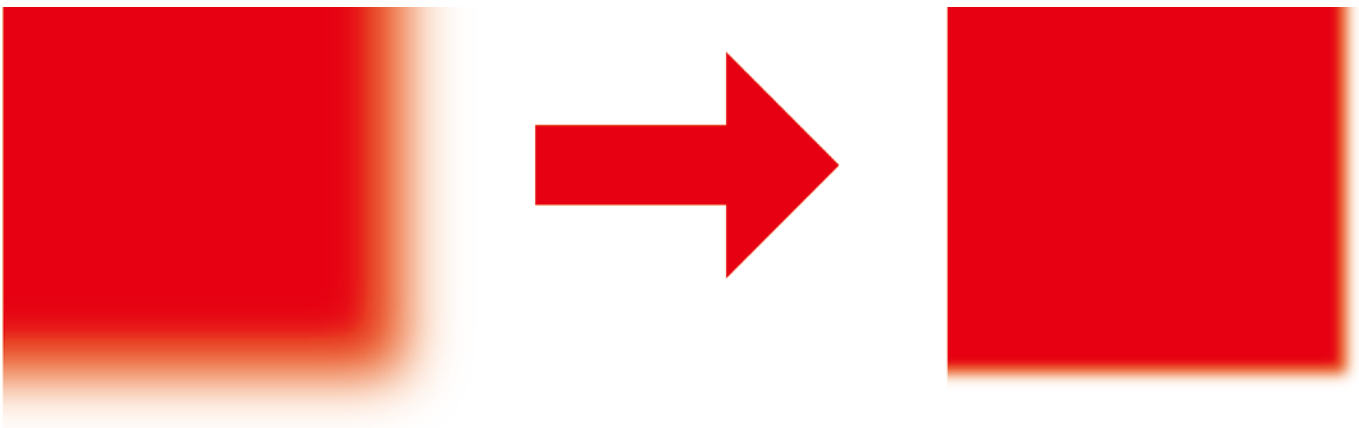
72ppi



350ppi



72ppi で設定されたデータを 300ppi に変更した場合

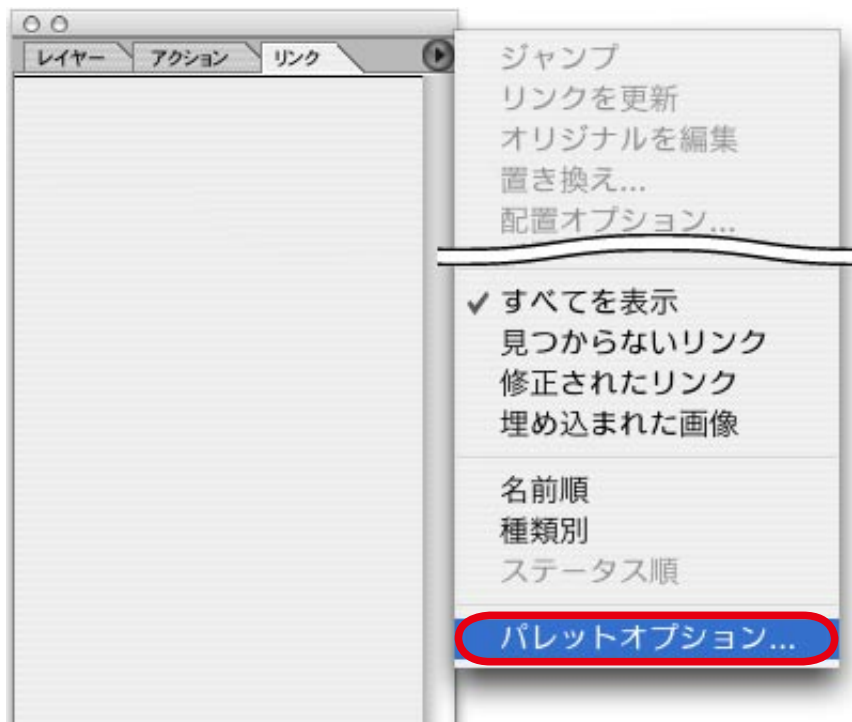


※ぼかしの幅が短くなります。

当社では入稿データのラスター効果設定変更は行いませんので、使用に応じた設定を行って下さい。

必要な画像を埋め込み。

リンクパレットの「パレットオプション」を選択して下さい。



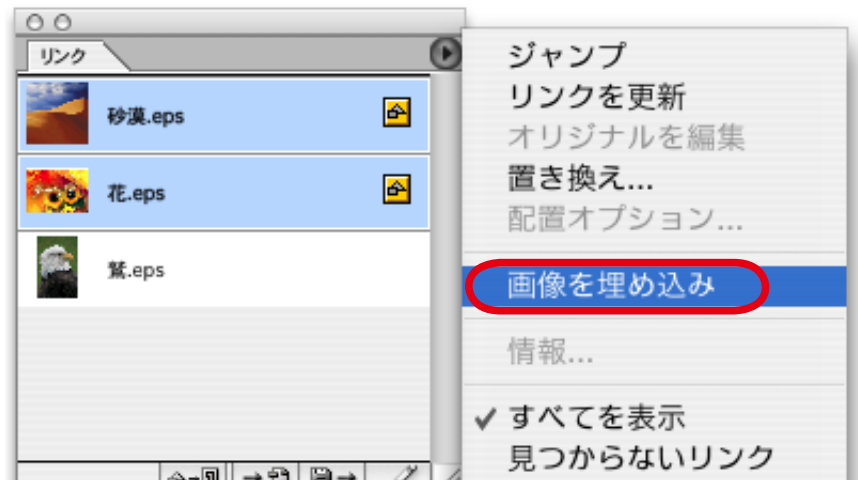
「透明の影響を表示」にチェックをつけて下さい。（※イラストレータ9にはこの機能はありません。）




リンクして配置した画像にリンクパレットでのマークがあるものは画像の埋め込みが必要です。



リンクパレットで「画像を埋め込み」を選択して画像を埋め込んで下さい。



 このマークはリンクした画像に透明効果を設定した場合、もしくはリンクした画像の周辺に透明効果を使用した場合に表示されます。

リンク画像の添付

Illustrator で画像データが配置されている場合、画像を埋め込みされていなければリンクが切れてしまい、画像が抜けた状態で印刷されてしまいます。 配置画像は「リンク」「埋め込み」どちらの状態でもご入稿いただけます。 画像をリンクさせてご入稿される場合は、必ず Illustrator ファイルと配置した画像を1つのフォルダにまとめてご入稿下さい。